



機関誌 第25号

自民石川

自由民主党
石川県支部連合会
組織広報本部

金沢市鞍月5-255
TEL 076(237)0911(代表)
FAX 076(237)0915
http://www.jimin-ishikawa.jp

発行責任者: 宮下正博

日本と石川の確かな未来へ 若さとフットワーク活かす

来年は春の統一地方選挙、夏の参議院選挙と、日本と石川の未来をより確かにする重要な年になります。それに向けた取り組みや県政課題への対応などを、自民党石川県連会長の佐々木紀代議士が語りました。



ささき はじめ
佐々木 紀

自民党石川県連会長

県連の長い歴史で、最年少(43歳)で会長職をお預かりしています。党員や現場の生の声を大切にすため、街頭演説や災害募金、支部訪問など県連の活動は国会の禁令がない限り限り出席してきました。県内くまなく足を運ぶことで、各地域の要望事項が臨場感をもって頭に入りますし、それらを国政や県政に反映させるため、これからも若さとフットワークを活かす決意です。

先国会で成立した法律の中には、国民の理解が得られにくいものがあつたと正直感じています。今後、党内での政策論議を活発化して情報発信に努めるとともに、国民の皆様にもさまざまな機会をとらえて説明したいと思つています。党勢拡大は、党総裁選を機に党員との接点を深め、拡大に努め



青年局青年部全国一斉街頭行動でマイクを握る=2018年6月、JR金沢駅前

ます。特に、未来を担う若者や女性への支持を広げるため、石川政経塾や青年局、学生部などの組織を動かして多様な意見を吸い上げ、自民党への理解と共感を醸成していく考えです。

やはり、地方創生をいかに形にできるかが問われていると思つています。カギとなるのは、企業誘致と定住人口拡大、インバウンド(訪日外国人旅行客増加)です。そのためには、陸海空の交通インフラとそのネットワークを強化することが不可欠です。

昨年、2870万人で過去最高を記録したインバウンドを、国は2030年、6000万人を目標にしています。成田、関空などのキャパをはるかに超え、アジアに近い日本海側にも国際空港が絶対必要です。小松空港は北陸新幹線、高速道路とのアクセスが抜群であり、国際空港をめざして第二滑走路、ターミナルビル建設を目玉とする整備計画に着手すべきです。

小松国際空港をめざす時代



自民党青年局長として、学生全国研修会であいさつ=2018年6月、党本部

勢拡大」の3つを、今年の重要課題に位置づけています。まず、来年行われる統一地方選挙と参議院選挙での勝利が最大の目標です。統一選は年内に各選挙区の体制を整え、参院選は掲示する党の街頭ポスターを全県で山田修路さん(県選挙区)、宮本周司さん(比例区)の「ダブルしゅうじ」に貼り替え、有権者への浸透を図ります。

北陸新幹線の早期全線開業を

北陸新幹線の早期全線開業は石川県の活力とポテンシャルを高める絶好のチャンスになります。今年、北陸は豪雪に見舞われました。ゲリラ豪雨や地震などの自然災害も増えています。治水、砂防など国民の目に触れにくい公共事業の予算が削られてきました。生活の安全と安心を守るうえで、これほど大切なものはありません。

支部訪問、職域支部・友好団体との懇談会

来年度県予算要望の聴取や統一選、参院選の勝利誓う

自民党石川県連の地域支部訪問、職域支部・友好団体との懇談会を、今年も6月から8月にかけて行いました。平成31年度県予算に対する要望事項の聴取や、党勢拡大に向けた党員募集の願いを目的に開催しています。特に、今年には来年の統一地方選挙や参議院選挙の対応について執行部より説明を行い、勝利に向けて全力で取り組むことを誓い合いました。



中小企業政策を専門とする 唯一無二の仕事に全力投球

小規模企業を応援する 基本法成立に奔走

—— 全国比例区代表として一丁目一番地の公約に掲げた「小規模企業振興基本法」が、平成26年に施行されました。

宮本●初当選から1年後、経済産業分野では51年ぶり、戦後2目となる閣法(内閣提出)による基本法として、「小規模企業振興基本法」



2015年6月、参議院本会議で初の代表質問に登場。特許法・不正競争防止法改正案に関して、宮沢洋一経済産業大臣に質問しました

を制定できたのは本当に大きな喜びでした。同法の制定で、わが国の85%に及ぶ小規模企業に対して、事業規模に適したきめ細かな支援策を提供できるようになりました。同時に、対象を明確化したことで、中規模な企業にとっても、最適な施策を実現しやすい環境が整っています。

もちろん、これだけで中小企業が直面する問題をすべて解決できるわけではありません。人手不足や人材育成などの喫緊の課題があり、中小企業が取り組む省力化や効率化、

生産性向上などへの挑戦を後押しする、思い切った支援策の必要性を感じています。

—— 地元石川県に関連した取り組みでは、どのような事業に力を注いできましたか。

宮本●石川県選出国会議員の先輩よりご指導いただきながら、県内経済の基盤強化や産業振興に資する事業に取り組みました。例えば、商店街活性化のための国補助事業とつなげたり、企業の設備投資など事業規模に応じた支援策をマッチングしたり、面的政策や個社対策を実現してまいりました。伝統産業・伝統工芸に関連した全国的なサミット・イベントの誘致や支援にも努め、地域経済の活性化や各種産業振興もサポートしました。

また、働き方改革では、中小企業対策ワーキングチーム事務局長として、地方の企業・事業所に負担やリスクを押し付けられないような制度改正に尽力しました。

—— 党内では、経済産業部会長代理や中小企業対策を検討する党ワーキングチーム事務局長などを務めています。これらの活動状況について教えてください。

宮本●参議院や自民党内で、経済産業政策や中小企業支援政策を専門とする議員は私一人しかいません。唯一無二の議員として、党経済産業部会長代理を務め、部会運営や経済産業政策立案の中心で仕事をさせてい



自民党青年局・青年部の全国一斉街頭行動でJR金沢駅前前で街宣(2018年6月)

みやもと しゅうじ
参議院議員 **宮本 周司**

ただきました。

特に、平成30年度の税制改正大綱は、大きなやりがいを感じた仕事です。私が取りまとめ責任者となった事業承継税制に関しては、中小企業が円滑に世代交代できるよう、実質的な税制負担をなくすなど、画期的な制度へと支援内容を拡充しました。新たな設備投資にかかる固定資産税をゼロにする特例も実現し、経済産業界に力強い応援メッセージを発信できたと思っています。

比例で2期目に挑戦 石川にプラス1の力を

—— 省庁の不祥事や国会の混乱が目につきます。風を受けやすいと言われる参議院比例区への影響について、どのように考えていますか。

宮本●省庁の不祥事や国会の混乱が、今後の政局にどのような影響を及ぼすか、心配するところではありますが、選挙結果に表れる大部分は、自分自身の日ごろの活動や1期目に実現した仕事に対する評価だと考えています。ですから、これまでと同様、自分自身がぶれたり、おごったりすることなく、常に厳しい環境に身を置き、粛々と努力を重ねていくだけだと思っています。



東京で開かれた全国商工政治連盟の総会に出席し、中小・小規模事業者のさらなる後押しを強調(2017年2月)

—— 2期目に挑む参議院への抱負と県民の皆様へのメッセージをお願いします。

宮本●全国商工政治連盟の組織内候補が全国比例代表2期目に挑むのは、私が初めてです。さまざまな業種業界の縦割りの職域代表と異なり、私の立場は全ての業種につながる横糸の役割を担い、企業の挑戦や経営基盤強化、企業規模に応じた政策や環境改善など、今までかなわなかった仕事を具現化することができました。

実際、中小企業支援に資する施策は、私が当選する前の10年間と比べて、この直近5年間だけで実に3倍以上も実現できました。先輩方のご指導やお力添えがあつてのものですが、「もし私のような横糸がなくなれば、中小企業支援の環境はひと昔前に戻ってしまうのではないか」との危機感を抱いており、何としてでも来夏に再選を果たすため、全国行脚の活動を進めています。

衆議院3議席、参議院2議席の石川県にとっても、全国比例区代表としての私がいることで、「プラス1」の力をもたらすことができると自負しています。経済全体を活性化し、だれもがワクワクできる元気な地域を創出していくため、人生をかけて取り組んでいく覚悟です。ぜひとも皆様からのお力添えをいただけますよう、よろしく願いいたします。

昭和46(1971)年、辰口町(現能美市)出身。金沢泉丘高校、東京経済大学経済学部卒業。平成7(95)年、家業である宮本酒造店に入社し、同12(2000)年から代表取締役。石川県商工会青年部連合会会長、全国商工会青年部連合会会長などを歴任。同25(13)年、参議院選挙比例代表で初当選。党経済産業部会長代理などを務める。
【趣味】音楽鑑賞(ピアノ・クラシック音楽等)
【家族】妻、娘(大学生)
【好物】日本酒、そば
【信条】「自立」と「自律」



参院選挙候補予定者

「ダブルしゅーじ」に聞く

平成25年の参議院選挙で初当選を果たし、国政の場で自身の経験と得意分野を発揮して存在感を高める山田修路(石川県選挙区)と宮本周司(比例区)の「ダブルしゅーじ」。5年間の活動と来年度の改選に向けた抱負を聞きました。



昭和29(1954)年、加賀市出身。金沢大学附属高校、東京大学法学部を経て同51(1976)年、農林省(現農林水産省)入省。水産庁長官、農林水産審議官などを歴任。平成25(2013)年、参議院選挙石川県選挙区で初当選。同29(17)年8月から総務大臣政務官を務める。
【趣味】水泳、ウォーキング、パドミントン
【家族】妻(金沢市在住)、娘、娘婿
【好物】うどん、そば、煮魚、お茶漬け
【信条】コツコツと誠実に

「石川を元気に」を合言葉に 地域社会支える活動に注力

TPP対策、手取川濁水問題、 北朝鮮の違法操業などに取り組む

—— 平成25年7月の参議院選で初当選してから5年がたちました。参議院議員として、どのような活動に力を注いできましたか。

山田●「地方の活性化」「石川を元気に」を目標に、農林水産業や伝統産業、地場産業の振興、医療・介護などの福祉政策の充実、消防・郵便といった地域社会を支える活動の支援に重点的に取り組んできました。また、TPP協定に関しては、アメリカ(3回)、ベトナム(2回)、オーストラリア(1回)を訪問し、各国政府の関係者や国会議員と協議を重ね、国会審議の場では、安倍総理に直接、十分な国内対策を講じるように強く求めました。



2017年4月、参議院本会議に初登壇し、農業競争力強化支援法案について、与党を代表して政府方針などをいただきました



川北町で開かれた国土交通省の「手取川・柳川総合水防演習」に参加(2018年5月)

—— 日本海的好漁場である大和堆付近での北朝鮮漁船の違法操業問題に関しても、積極的に取り組まれてきましたね。

山田●はい。大和堆は日本の排他的経済水域にあり、外国漁船が無許可で操業することはわが国の主権の権利を犯すものです。決して容認できるものではなく、断固たる対応をしなければならぬと考え、海上保安庁や水産庁に対策を強く要請しました。今年は本格的な漁期が始まる前から巡視船と取締船を配備し、違法操業する

北朝鮮漁船に放水を行うなど対策が強化され、一定の効果が上がっていると聞いています。とはいえ、今後も状況をしっかりと確認し、必要があれば、さらなる対策を政府に訴えていきます。

政務官などの経験生かし 県民の声をもって国政に

—— 平成29年8月に就任した総務大臣政務官としての活動状況はいかがですか。

山田●総務省は消防や郵便、放送・通信といった国民生活に身近なことをはじめ、地方自治や国の行政の管理など、さまざまな業務を所管しています。総務大臣政務官就任から約1年、森林環境税の創設、郵政事業のユニバーサル・サービスの確保につながる法案の成立、地方活性化や消防体制の強化など、数々の成果を挙げることができました。いずれも日本の将来を左右する極めて重要な案件ばかりです。国会議員として、そんな働きがいのある仕事に挑めたことは大きなやりがいであり、大変感謝しています。

—— 省庁の不祥事や国会の混乱が目につきます。来年夏の参議院への影響について、どのように考えていますか。

山田●選挙への影響を考えるよりも、まずは各省庁の不祥事や混乱を招いた国会の運営について、問題点や反省点を明らかにすることが先決です。そして、一つひとつの課題をしっかりと改善していくことが、最も重要だと考えています。このような活動を通して、有権者の皆様のご理解を得ることが不可欠だと考えています。

—— 参議院への抱負と県民の皆様へのメッセージをお願いします。

山田●これからも、モットーである「地方の活性化」「石川を元気に」の実現に向けて努力していくことには変わりはありません。農林水産省時代の経験に、参議院議員や総務大臣政務官として広げた知見やネットワークをプラスし、県民の皆様のお役に立てるよう、生活に密着した問題に懸命に取り組んでいきたいと思ひます。

その一つが北陸新幹線で、新幹線効果を持続させ、22年度末予定の敦賀開業の機会を利用して、さらなる地域の活性化につなげていきたいと思ひます。もちろん、大阪までの延伸についても、1日でも早く実現できるよう努力を重ねてまいります。加えて、国会議員として、憲法改正や安全保障、通商政策、農林水産業や中小企業の産業振興など、国全体にかかわる課題にも全力で取り組んでいきます。



総務省の政策評価審議会で野田総務大臣とともに(2017年11月)

やまだ しゅうじ
参議院議員 **山田 修路**